



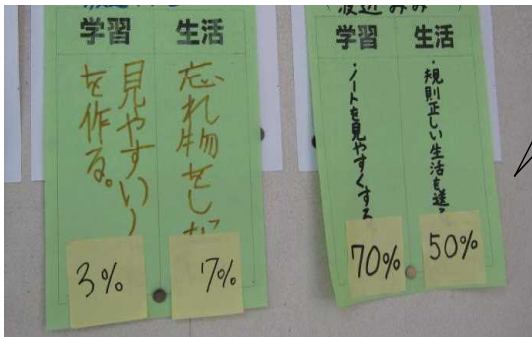
## 学校の重点目標と関連させた自己目標に

～PDCAサイクルは、全ての教育活動で行う～

1学期末を迎え、各学級では、自分の目標や学級のめあて等の振り返りを行っていることと思います。学期のスタートに当たり、「どんな学級にしたいか」「どんなことにがんばるのか」を考え、学級のめあて等を話し合い決めたことと思います。そのめあての達成度を振り返りながら、2学期に向けて自己目標の実現やよりよいクラスづくりのための指導をぜひ行ってください。

学校訪問の際に見られためあての達成度の振り返りを行っているクラスの事例を紹介します。

【米水津中学校】



目標に対する達成状況を数値化しています。

めあてに対する振り返りを記述しています。

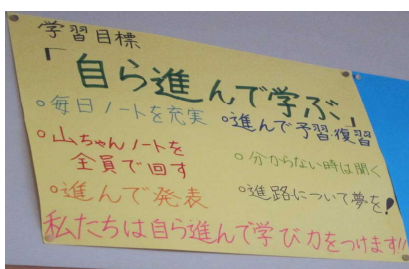
【米水津小学校】



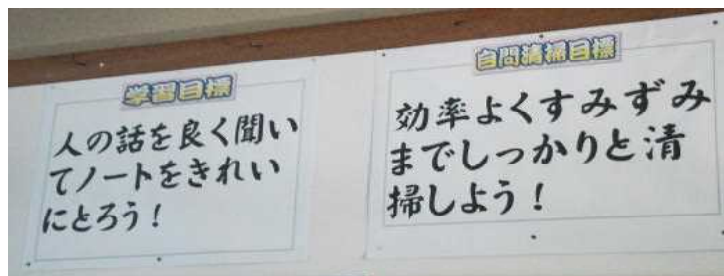
学期始めに立てた自分の目標を学期終わりで評価するのは難しい面があります。そのため、目標に対して、現在の進捗状況を機会あるごとに振り返り、改善をする取組はとても大切です。学校評価の4点セットと同じように、短期のPDCAで目標をブラッシュアップすることは、目標の実現に有効だと考えられます。

このような目標を振り返り、見直しを積み重ねていくことは、将来の自己実現を図るための能力を身に付けることにつながります。

【直川中学校における学習目標】



【佐伯城南中学校における学習目標】



中学校では、生徒の学ぶ意欲を高めるために学習目標を設定している学級もありました。教師から指示されるだけではなく、主体的に学習をすすめるために学習目標を設定することは有効な取組です。

さらに、学校の重点目標や授業改善の視点とつながられるような学習目標にすると、教師側と児童生徒側の両面から評価できるので、目標に向けた取組の改善・充実が図られます。

2学期は、学校の重点目標をブレイクダウンした児童生徒の目標を設定してみてもはいかがでしょうか。学校重点目標の見直しと同様に、児童生徒の目標も短期PDCAで見直し、改善に向けた取組が推進できることが期待できます。

1学期の教育課程の実施状況を評価し、来年度に向けた改善を進められていると思います。ぜひ、児童生徒の活動等についても、PDCAの視点を取り入れて評価、改善・充実を図ってほしいと思います。